

彙報

『河口慧海日記 ヒマラヤ・チベットの旅』講談社学術文庫 二〇〇七年五月

平成十九年度 研究所所員研究業績

乾 仁志

○論文

- 「弘法大師の面部思想」『加藤精一博士古稀記念論文集 真言密教と日本文化へ上』ノンブル社 二〇〇七年十二月 九五—一〇九頁
「高祖弘法大師御詠歌第一番のこと」『高野山時報』第三二二六号 二〇〇八年二月一日

奥山 直司

○論文

- 「Pilgrimage to the Crystal Mountain in Dolpo by the Japanese Monk, Kawaguchi Ekai」『Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5Sept.- 8Sept.2006』高野山大学 二〇〇八年三月 二〇七—二二二頁
『「センシオン年代記」によるセンシオン村(吾屯)の起源』「ヨマル寺の壁画」『カサル村のタンカ』『平成16年—19年度文部科学省科学研究補助金基盤研究(2)・研究成果報告書 チベット仏画制作センターにおける伝統技法用法と継承に関する研究』二〇〇八年二月

○編著

中村 本然

○論文

- 「道範撰『金剛頂経開題勘註』について」『高野山大学密教文化研究所紀要』第二二号 二〇〇八年二月 二九—五二頁
○研究報告

「『五大にみな響きあり』・空海のコトバ論を巡って—空海の『声字実相義』以降の展開—」密教文化研究所第七回研究会(「密教と現代」ワークショップ第一回)、(高野山大学)二〇〇七年十一月

○テキスト(通信教育)

「辯頭密二教論を読む」(高野山大学通信教育室)

○随筆

- 「弘法大師の入定と如意宝珠」『高野山時報』第三二〇五号 二〇〇七年六月一日
「高野山浄土信仰と如意宝珠」『高野山時報』第三二〇六号 二〇〇七年六月二日

藤田 光寛

○論文

- 「Shingon Esoteric Buddhist Rituals:the Rituals of Koyasan」『Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5Sept.- 8Sept.2006』高野山大学 二〇〇八年

三月 一一三—一二三頁

○その他

「国際社会における密教の展望として何を提示すべきか」日本密教学会第四十回学術大会シンポジウム「現代社会における密教の具体的な展開—利他行の視点から—」『密教学研究』第四〇号 二〇〇八年三月

「書評紹介 越智淳仁著『図説・マンガラの基礎知識—密教宇宙の構造と儀礼—』」『密教学研究』第三九号 二〇〇七年三月 一八〇—一八四頁

「書評紹介 森雅秀『生と死からはじめるマンガラ入門』」『北陸宗教文化』第二〇号 二〇〇八年三月 一二八—一三三頁

室寺 義仁

○論文

「輪廻の原因としての無明—諸々のサンスカラについての無知—」

『高野山大学論叢』第四三巻 二〇〇八年二月 四七—六〇頁

「グプタ朝期におけるアビダルマ教学とヴァスバンドゥの教義解釈研究」平成十七年度〜平成十九年度日本学術振興会科学研究費補助金・

基盤研究(C)研究成果報告書 全一〇八頁 二〇〇八年三月

○口頭発表

『加持』という祈り—仏弟子たちの想い…『大悲』というブツダの思願—日本宗教倫理学会夏期—泊研修会(高野山大学)二〇〇七年八月

(<http://www.jare.jp/project/2007.html> 所載)

『五大にみな響きあり』・空海のコトバ論を巡って—空海の『声字実相義』に至るまで—密教文化研究所第七回研究会(「密教と現代」

ワークショップ第一回)、(高野山大学)二〇〇七年十一月

平成二十年度 密教文化研究所だより

定例の合同研究会(課題「弘法大師の思想とその展開に関する研究」、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」)は、今年度七回開催された(詳細は <http://www.koyasan-u.ac.jp/labo/20-001.html> に掲載)。

第1回 6月30日(月) 佐藤隆彦「三密行について」

第2回 7月15日(火) 安藤和雄「アティーシャのみたチベット・ネパールの農村風景—2005年8月27日〜9月12日の見聞記—」

第3回 10月27日(月) 奥山直司「青海蔵族と仏教文化—『センシヨ

ン年代記』と「センシヨ ン壁画」を中心に—」

第4回 11月4日(火) 苦米地等流「『理趣経(百五十頌般若経)』の

新出サンスクリット写本について」

第5回 12月15日(月) 大塚伸夫「『大吉義神呪経』に見られる初期

密教の様相」

第6回 12月16日(火) 密教と現代ワークショップ 第1回

棚次正和「五大にみな響きあり・空海の『声字実相義』を読む—」

生井智紹「『吽字義』にみる「ことば」

密教と現代ワークショップ 第2回

第7回 2月2日(月)

手島勲矢「フィロソフィアと宗教思想の間合
いについて―ヘブライ大学哲学科の誕生秘話
に想う―」

中村本然『辯顯密二教論』にみる「ことば」

平成二十年度は密教文化研究所受託研究員として、十四名、ペテロ・
バークヘルマンズ (Peter Baekelmans)、ベルギー、オリエンズ宗教研究
所)、パオラ・ディ・フェリーチェ (Paola Di Felice、イタリア)、大
森弘 (近畿大学名誉教授)、川崎一洋 (高野山大学講師)、サンニャ・ユ
ルコヴィッチ (Sanja Jurkovic)、伊東秀一郎、高岡隆真、中谷征充、
波多野智人、平賀由美子、前田禮子 (以上七名、高野山大学院博士
後期課程単位取得退学)、上野康弘、大観慈聖 (以上二名、京都大学大
院博士後期課程単位取得退学)、大柴清圓 (中国、中山大学中国語言文
学系古文学博士課程学位取得) 各氏を受け入れている。

高野山大学では密教文化研究所初代所長中野義照博士の業績を顕彰す
るため、中野博士の著作物売上金と御親族の寄附金を基金として、平成
十二年から「中野義照博士奨学金」を設けている。平成二十年度は一件
の申請があったが、八月一日密教文化研究所協議会において選考の結果、
採択者なしと決定した。

密教文化研究所構成員名簿 (平成二十一年二月現在)

所長	藤田 光寛 (文学部教授)
専従研究所員	奥山 直司 (文学部教授)
〃	佐藤 隆彦 (文学部准教授)
兼任研究所員	乾 仁志 (文学部教授)
〃	谷川 泰教 (文学部教授)
〃	中村 本然 (文学部教授)
〃	南 昌宏 (文学部准教授)
〃	室寺 義仁 (文学部教授)
委託研究員	浅井 證善 (高野山専修学院能化)
〃	安藤 和雄 (京都大学准教授)
〃	岩崎 留美 (医療法人南労会紀和病院)
〃	大塚 伸夫 (大正大学講師)
〃	近藤 孝 (医療法人南労会紀和病院)
〃	静 春樹 (高野山大学講師)
〃	棚次 正和 (京都府立医科大学教授)
〃	谷山 洋三 (四天王寺大学准教授)
〃	手島 勲矢 (同志社大学教授)
〃	外川 昌彦 (広島大学大学院准教授)
〃	トーマス・ドライトライン (高野山大学講師)
顧問	廣岡 慎治 (医療法人南労会紀和病院)
〃	松長 有慶 (名誉教授)
研究所事務室長	田寺 則彦

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

- 第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。
- 第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。
- (1) 研究所長
 - (2) 専従研究所員
 - (3) 「紀要」編集担当者
- 2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。
- 第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。
- 第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。
- (1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
 - (2) 「紀要」寄稿者への補筆および補正の要請。
- 第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。
- 第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則

- 1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。
- 1 この規程は、平成一四年五月二二日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

- 第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。
- 第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 研究所長
 - (2) 研究所員
 - (3) 研究員
 - (4) 編集委員会が適当と認める者
- 第3条 原稿は、原則として四百字詰原稿用紙七十枚以内とする。
- 第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。
- 第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。
- 第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。
- 第7条 寄稿者には、掲載誌二部および抜刷三十部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則

- 1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

棚次 正和 密教文化研究所委託研究員

（京都府立医科大学教授）

大柴 清圓 密教文化研究所受託研究員

（中国、中山大学中国語言文学系

古文字学博士課程学位取得）

バーケルマンス・ペテロ

密教文化研究所受託研究員

（オリエンス宗教研究所）

大観 慈聖 密教文化研究所受託研究員

（京都大学大学院博士後期課程単

位取得退学）

加納 和雄 高野山大学文学部助教

静 春樹 密教文化研究所委託研究員

（高野山大学講師）

川崎 一洋 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学講師）

奥山 直司 密教文化研究所専従研究所員

（高野山大学文学部教授）

苫米地 等流 オーストリア科学アカデミー・ア

ジア文化思想史研究所・研究員

編集後記

『高野山大学密教文化研究所紀要』第二十二号には、棚次正和、大柴清圓、バーケルマンス・ペテロ、大観慈聖、加納和雄、静春樹、川崎一洋、奥山直司、苫米地等流各先生の論文を掲載した。

今年度、密教文化研究所は藤田光寛新所長の下、新体制が発足した。大学の教育研究の改革・改善を進める中で、附置研究所の果たすべき役割はきわめて大きいものがあると言えよう。

密教文化研究所では、高野山大学が取り組んでいる「伝統教
学復興プロジェクト」の一環として企画立案されていた『真言
宗古字書資料集』の編集作業に着手している。

高野山では、密教經典の意味を議論問答する「論義」において、伝統的な読み方（読曲）やアクセント（四声読み）が継承され、近世にはそれらを知るための「字書」が作られている。今回、伝存する「古字書」七点を影印刊行する予定である。

密教学、仏教学、国語学、音韻学など、広い分野で活用されることを念じている。

（田寺記）

高野山大学密教文化研究所紀要 第二十二号

平成二十一年二月二十一日 印刷
平成二十一年二月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 藤田光寛

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野山高野山大学
電話 (0736) 541-3300

印刷所 第一印刷出版株式会社

大阪市福島区福島七-1-31-1
電話 (06) 6461-6611